



# 地域に必要とされる医療をより身近により安心に

## ～市立伊丹病院と近畿中央病院の統合を視野に入れた協議を開始します～

伊丹市 地域医療体制整備推進班

〒664-8503 伊丹市千僧1丁目1番地 / TEL.072-767-1029

### 2019年(平成31年)2月 市立伊丹病院あり方検討委員会より検討報告書を受領しました



(写真左:澤大阪大学医学部教授、右:藤原伊丹市長)

2019年(平成31年)2月5日、市立伊丹病院あり方検討委員会 澤委員長(大阪大学大学院医学系研究科心臓血管外科教授)から市立伊丹病院あり方検討委員会「検討報告書」が、藤原市長へ手交されました。

#### 報告書の『総論』は下記の通りです

医療の進歩に的確に対応し、市民に最善の医療を提供するため、市立伊丹病院は近畿中央病院と統合し、他の医療圏域への流出が多くみられる、がんや脳血管疾患、心血管疾患などに対応できる機能を有し、かつ災害時にも対応できる500～600床規模の阪神北医療圏域における基幹的な病院をめざすべき。

併せて、阪神北医療圏域の他の医療機関、及び在宅医療、介護サービスとの円滑な連携や役割分担を図ることにより、市民が住み慣れた地域で必要とされるサービス等を受けることができるよう努めるべき。

※あり方検討委員会の詳細については、2面以降の「概要その1・その2・その3」をご覧ください。

●あり方検討委員会の議事録や使用資料については市HPをご参照ください。

[http://www.city.itami.lg.jp/SOSIKI/KE NKOFUKUSHI/TIKI\\_IRYO/sirituitamiby ouinarikatakentouitinnkai/index.html](http://www.city.itami.lg.jp/SOSIKI/KE NKOFUKUSHI/TIKI_IRYO/sirituitamiby ouinarikatakentouitinnkai/index.html)



QRコード

アンケート調査を実施しました

2018年(平成30年)7月1日～20日までの間、満18歳以上の市民3,000人を無作為に抽出し、市立伊丹病院のあり方に関する市民アンケートを実施しました。

これを受けて

### 2019(平成31)年度 市立伊丹病院と近畿中央病院の統合を視野に入れた協議を開始します

2019(平成31)年度は、あり方検討委員会の検討報告書を踏まえ、市立伊丹病院と近畿中央病院の統合の可否を協議するための協定書を締結し、伊丹市と公立学校共済組合が共同で調査研究事業を実施します。

#### 伊丹市と公立学校共済組合による共同調査研究事業を実施

下記の項目について、共同で調査研究事業を実施し、統合の可否の協議を進めます

- ① 医療需要調査
- ② 必要となる医療機能
- ③ 病床規模ごとの収支シミュレーション
- ④ 統合パターンの検討

今後の方向性

### 市内において必要とされる地域医療体制の構築を目指します

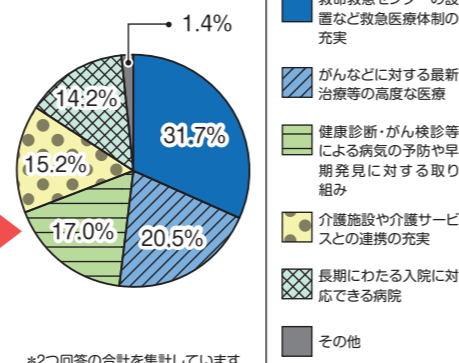
#### ～伊丹市の責務～

市内の基幹病院で不足している高度医療の充実を図るとともに、基幹病院以外の病床(回復期病床)等の確保にも努め、市民の皆さまのご理解を得ながら、地域において必要とされる医療提供体制(地域完結型医療)の構築を目指します。

市民の声をお聞きする機会を設け、皆さまとともに今後の方向性を検討していきます。

#### 平成30年度 アンケート調査結果 1

Q:市立伊丹病院にどのような医療サービスを期待しますか?



### 概要その2

## 各課題に対する望ましい方向性として次のような提言を受けました

#### ① 高度急性期医療を担う中核病院の必要性

他の医療圏域への患者流出の多い新生物(がん)や循環器系疾患に対応するため、脳神経外科・心臓血管外科などの診療体制の充実に努め、高度な医療の提供や、災害時に対応できる体制を構築し、地域における医療完結率の向上に努めるべき。

#### ② 市立伊丹病院の建替の最適な時期

築後35年を経過している現状を踏まえると、市立伊丹病院は建て替えを検討することが望ましい。

#### ③ 安定的運営を実現させる病床機能や規模等

持続的運営が可能な経営的視点と、高度急性期医療を提供する機能的視点から考慮すると、基幹病院機能としては、500～600床規模の病院が望ましい。一方で、別途、圏域内における回復期病床のあり方についても検討する必要がある。

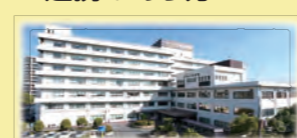
#### ④ 最適な立地場所の検討

今後の高齢化社会を見据えると、公共交通機関によるアクセスの向上など、利用者の利便性を重視した立地の検討を進める必要がある。

市立伊丹病院



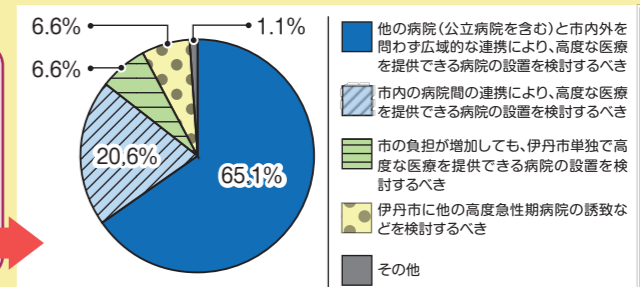
#### ⑤ 他の医療機関等との連携のあり方



近畿中央病院

#### 平成30年度 アンケート調査結果 2

Q:他の病院との連携のあり方を検討することについて、どう考えますか?



### 概要その3

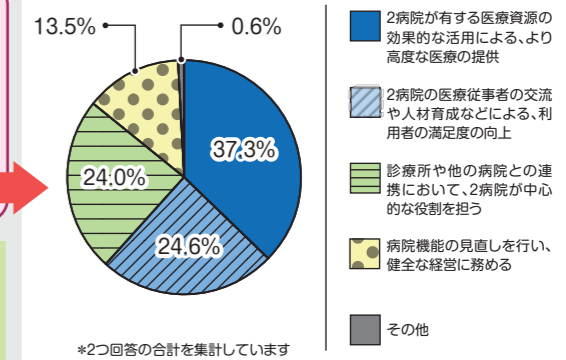
## 今後、下記の事項に留意して、検討を進める必要があります

あり方検討委員会では「今後検討を進めていくうえでの留意事項」として10項目の提言を受けました。ここでは、そのうちの3つを抜粋しております。

① 伊丹市は、市立伊丹病院と近畿中央病院の統合を前提とした協議を公立学校共済組合との間において進めることができるよう調整を図ること。

#### 平成30年度 アンケート調査結果 3

Q:市立伊丹病院と近畿中央病院へどのようなことを期待しますか?



② 基幹病院における高度急性期・急性期医療の提供に加え、回復期医療等の提供にも注視し、入院医療に対する市民の不安が生じることのないよう、必要と考えられる病床の確保に努めること。

③ 阪神北医療圏域の公立・公的病院及び設立自治体等が行う検討とも十分に調整を図り、阪神北医療圏域内における役割分担や円滑な連携に努めること。

### 新病院建設候補地の選定について

### トピック II

- 候補地の選定については、近隣市との連携も視野に入れながら、最適な立地場所の検討を進める必要があります。また他の基幹病院との連携のあり方によって、あらゆる方向性に対応し得る立地場所である必要があります。
- さらに、市の所有地ではなく民間の土地を取得する可能性が予測されますことから、その及ぼす影響が多岐にわたること配慮し、候補地の選定につきましては、詳細が決まり次第速やかにご報告させていただきます。